

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

109号

2009年5月28日



ときわ台の景観を守る会

ときわ台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 行政訴訟口頭弁論

6月2日(火) 11時30分
於 522号法廷(東京地裁)

第2回口頭弁論が開かれます。法律を曲解に曲解を重ねて、業者に対する利便を図った結果、地元住民の安全が脅かされるのは我慢ができません。藤和不動産はこのマンションの謳い文句にこんなことを書いています。

「駅前に高い建物が無いので、空が広く見えます」！！

呆れませんか？常盤台の環境・景観を破壊しながら、常盤台の良さを売り物にマンションを売りつけ、社会的責任などひとかけらも持たずに売り逃げする・・・こういう業者がうまい汁を吸えば、常盤台にさして愛着など持っていない人は同じように儲けようとするでしょう。情けないことです。

○ 中台でまちづくり運動始まる

中台には常盤台と同じように東武鉄道が分譲したところがあり、昨今の状況は常盤台と似た悩み、敷地の細分化や高層マンション問題を抱えているようだ。その中台でも住民が主体となって、街並み保全のまちづくり運動がはじまったという。嬉しいことに私たち常盤台住民の活動が参考になっているという。

同地の「まちづくりニュース」によれば街歩きを行い、月1回の勉強会を開きながら、地区計画に向けて活動するようだ。心からエールを送りたい。まちづくり運動がそれぞれの地域で住民主体で活発に行われるようになれば、板橋区も本当の意味で生き活きとした緑と文化の板橋になるだろう。

○ 古い写真はありますか？

「みどりのガイドブック挿絵原画展」が「ギャラリー服部」で行われました。来館者の関心は同時に展示された昔の常盤台の写真の方にも向けられていたようです。

70周年にロータリーで行った写真展を再現して、昔の懐かしい常盤台の写真の展示を企画しています。古い写真をお持ちの方はぜひお知らせ下さい。人物が映っていても構いません。ネコかなにかのお面をかぶせます。

いつか、このような古い写真など、街の歴史を展示する資料館ができることを願っています。それだけの価値を持った街だと思えます。

○ 新型インフルエンザ騒ぎ

新型インフルエンザの脅威からマスクが店頭から消えてしまったとか。かつてのトイレトペーパーの時の愚かな騒動を思い出します。日本人は流言飛語に左右されやすいことがまたもや立証されてしまいました。他国ではこんなに神経質に騒いでいないようです。最近では冷静な報道機関であるべきマスコミが騒動をあおっているのだから危険この上ありません。

今回騒ぎに乗ってしまった人は、自分の性向に気を付けたほうが良いと思います。人や世間に左右され、どのようにでも流されるのではなく、主体性を持てば色々な真実が見えてくるはず。ヒステリックに皆が流されている時、必ず踏みとどまって冷静に考えることを“癖”のようにしてはどうでしょう。

オリンピック招致運動も、都民の支持率が70%に上がったと報道され、スポーツ関係者は大宣伝しているけれど、なんだかおかしいと思いませんか。

向山・田園調布に学ぶこと

三月のある日、練馬区向山を訪れました。家々はきれいな生垣で囲まれ、桜の花がもう直ぐ盛りで、木々の緑の中で、しっとりとした落ち着きがありました。車の行き来も殆どなく、桃源郷の雰囲気です。

なぜこのような住環境が保たれているかといえ、街並み保全のルールが街の形成時からできており、それを実行する組織Ⅱ城南住宅組合が機能してきたからなのです。町内会はその別と存在し、住民はほとんどが両方の会員となっています。

常盤台にも昭和初期の分譲時には、東武鉄道の建築規約があり、購入者は建築計画の図面を東武に出すようになっていました。住民組織としては郷会という組織ができ親睦を図っていました。建築規約の担い手であったか否かはよく解っていません。少なくとも東武鉄道に代わって図面を検討したと言う話は聞いていません。戦時中に配給などを行う行政の末端組織として町会が作られ、郷会の跡を継いでいます。祭礼などの寄付金集め、交通安全、防犯等々、今も大変な仕事を担っています。やはり街並み保全とは無関係だったと言えるでしょう。

常盤台の見本となった田園調布の田園調布会は、当初から町会組織であると共に、街並み保全団体でもありました。規制は厳しく、建築設計図だけでなく外構の図面の提出も求めています。違反した場合は会が先頭に立ち、建設反対運動を起しています。

成城も常盤台と似たような状況でしたが、近年、町会の中で成城憲章を作り、様々なルールを決めようとしています。

このように町によって違いや温度差はありますが、今までの紳士協定では街の環境・景観は守られないという悩みは何処も同じであり、それぞれが今行っている規制だけでなく、更に工夫を凝らそうと努力を続けています。

常盤台にもやっと景観ガイドラインができ、昨年からしゃれ街協議会が対応することになりました。しかし、向山や田園調布との七〇年の遅れは歴然としているのです。今は環境の荒廃を食い止めるのに精一杯でも、徐々に挽回していくようにするには、住民みんなの協力と努力が必要なのでしょう。

常盤台で見かける鳥

— ウグイス・巢立ち —

雀や四十雀が雛を連れまわしてえさを与えたり、飛ぶ訓練をしているのを見かけるようになりました。えさをねだっている雛は本当にまだ嘴の元が黄色です。カラスに捕まえられるないように、早く大きくなりなさい、と声をかけたくなります。中央図書館の排気口の丸い穴にはムクドリが巣をかけたようで、雛の声が聞こえます。小鳥が多いのは高木があるからで、今年もウグイスを聞くことができました。長く居続けないのは環境が悪化しているからでしょう。高木が大事にされていないのは悲しい限りです。

常盤台公園の花づくり

Ｔさんがセッコクへ小さなデンドロビウム？を株分けして、欲しい人に分けてくださるそうです。幹肌の粗い樹木に着生させると良く、公園と図書館の間の芝生に立っているスダジイに実例があります。白とピンクがあり、ラン特有の良い香りがします。Ｔさんがちゃんと木に付くまでの作業をしてくださるそうです。希望者はご連絡下さい。

十六日、土木課のＹさんにボランテイアで講義をしていただきました。土壌や剪定・肥料の話など、公園の木々を前に面白い話でいっぱいでした。柿の木は何故一年おきに豊作になるか、とか、アジサイの青とピンクの違いとか、サツキ・ツツジの刈り込み時期とか・・・常盤台には植物の好きな人が多いので、いつか広く呼びかけて、このような緑の講演会をすると良いと思います。

六月五日にはチューリップを掘りあげて、公園課から提供されるサルビアなどの苗を植えつけます。支給苗の場合いつも色の指定ができず、もらったもので配色を考えるしかありません。花の色は最も大事な要素なのでちょっと残念。

定例会 六月十三日（土）七時

一・二丁目町会事務所